

令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐむ教育の推進		
<p><b>1 一人一人の児童生徒の尊重</b></p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>昨年度に比べて評価が上がっているが、保護者と児童で「どちらかといえば、そう思わない」の回答があり、教職員の見取りとの開きを感じる。個に応じた学習指導や先生と話すタイムの活用など日頃の細やかな実践を家庭にも伝える必要があると思われる。</p>	<p><b>2 友達への思いやり</b></p> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>昨年度より評価が上がっているが、まだ児童と教職員の見取りに開きが大きい。学校再開後、コロナに関するいじめなどの実態は今のところ聞いていないが、引き続き、道徳や人権教育を充実させて思いやりの心を育てる必要性を感じる。</p>	<p><b>3 道徳・心の教育の充実</b></p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p> <p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>新しい教科書になったが、先行実施をしていたので、とまどいも少なく、職員が計画にそってデジタル教科書も利用しながら授業に取り組んでいると思われる。保護者の評価が少し下がっている。毎年心かがやけ月間に合わせ道徳の授業参観をしていたが、今年度はできなかったことも一因だと考えられる。</p>

②確かな学力を育む教育の推進		
<p><b>4 意欲的な学習態度</b></p> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>保護者・児童・教職員ともに「そう思う・どちらかといえばそう思う」が8割を超えており、学習に対する意欲は全体的に見ると高いと言える。しかし、昨年度と比較すると「そう思わない」と回答している児童数が増えている。学習評価の充実を図り、指導改善や学習意欲の向上により一層努めていきたい。</p>	<p><b>5 授業力向上</b></p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>教職員はわかる授業、楽しい授業づくりに努めていると感じているが、12%の児童と8%の保護者はそう感じていないことから、児童の実態に即した授業改善と評価を今後さらに充実させていく必要がある。</p>	<p><b>6 ICT活用</b></p> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>昨年度からタブレットが導入され、様々な授業での活用頻度も増えてきている。児童自身がICT機器を活用することで、主体的に活動する姿が見られた。今後は、1人1台のタブレット配布となるので、情報モラル教育を徹底しながら、児童同士の対話が増えるようなICT機器の活用をしていきたい。</p>

③健やかな体を育む教育の推進	
<p><b>7 健康づくり</b></p> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>どちらかといえばそう思わない、そう思わない、としている児童と保護者の割合は昨年度と同じ程度である。生活習慣を変えるには保護者の協力が必要であり、今後も『さんさん生活週間』等を継続して改善をめざしたい。</p>	

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実		②特別支援教育の推進	
<p><b>8 児童生徒理解</b></p> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>2割近くの保護者、児童が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という回答であった。毎学期の「先生と話すタイム」の実施だけでなく、日頃から児童に寄り添い、児童理解に努め、信頼関係を深めていく必要がある。</p>	<p><b>9 いじめや問題への対応</b></p> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>子どもを見つめる会等で共通理解を図りながら対応を行っているが、担任だけでは目が行き届いていない問題があることが、教職員と、保護者・児童の結果から分かる。担任だけでなく学校全体でいじめ問題に対応していくことが今後の課題である。</p>	<p><b>10 学校の支援体制</b></p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>保護者の1割程がそう思わないという結果から、本校の特別支援教育の取り組みや、支援体制についての発信が不十分だったと考えられる。保護者に対する発信の機会を増やすよう努めたい。</p>	

### ①子どもたちの身近な安全対策の充実

### ②最適な学習環境の整備

#### 11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

回答者	「はい」	「いいえ」
保護者	85%	15%
児童	80%	20%
教職員	90%	10%

今年度は、コロナ禍ということで、安全教育に関する行事等が中止になったり、縮小されたりした。しかし、子どもたちの「自分の命は自分で守る」という意識付けや、「生きる力を」を育むための取り組みを学級活動、全校朝会（遠隔）、避難訓練等で工夫を行うことで、昨年度との大差のない結果であった。今後は、更に保護者との連携を密にし、安全教育の推進に努めたい。

#### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

回答者	「はい」	「いいえ」
保護者	80%	20%
児童	75%	25%
教職員	90%	10%

昨年度あった保護者の無回答がなくなったことで、関心が寄せられたと考える。校舎、運動場の遊具の老朽化に加えて、熊本地震での破損箇所が未だ残っているが、できる限りの修理・改善を行っている。今後も定期点検等を行いながら安心安全な環境づくりに努めていきたい。

### ③家庭・地域社会との連携強化

#### 13 教育方針・目標の理解

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

回答者	「はい」	「いいえ」
保護者	85%	15%
児童	80%	20%
教職員	90%	10%

学校ホームページでは、「週刊日吉くん」より毎週各学年の学習の様子、各種お便りを掲載して情報発信を行っている。登校時の安全指導や低学年児童下校時の見守りを地域と連携して進めている。PTA活動や学年PTA活動はコロナ禍の中でどのように進めていくかを検討中である。

#### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

回答者	「はい」	「いいえ」
保護者	80%	20%
児童	75%	25%
教職員	90%	10%

昨年度より保護者の「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した割合が減少したが、合わせるとほぼ8割を超えている。引き続きホームページをはじめ各種通信等で、学校の情報発信を行うとともに気軽に相談できる体制づくりなど進めていきたい。コロナ禍での連携協力の環境整備が今後の課題である。

### ④本校の教育

#### 15 あいさつの習慣づくり

子どもは、すすんであいさつができていますか。

回答者	「はい」	「いいえ」
保護者	85%	15%
児童	80%	20%
教職員	90%	10%

保護者・教職員と児童と評価に差が出るのは、それぞれの基準の違いによるものだと考えられる。どんなあいさつができればいいのかを、月目標などに具体的に設定していき、職員全体であいさつの向上を目指していく必要がある。

#### 16 規則の遵守

子どもは、まきりやマナーを守っていると思いますか。

回答者	「はい」	「いいえ」
保護者	80%	20%
児童	75%	25%
教職員	90%	10%

児童が感じている以上に、教職員の評価が低い。決まりやマナーについては共通理解と共通実践が重要なので、どんな決まりが守れていないのか、どんなマナーをもっと定着させる必要があるのか、具体的に項目を整理して学校全体で指導していく必要がある。

#### 17 体力づくりの推進

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。

回答者	「はい」	「いいえ」
保護者	80%	20%
児童	75%	25%
教職員	90%	10%

今年度は新型コロナウイルスの影響で休校期間があり、体力の低下が心配された。しかし、学校再開後は多くの子どもたちが元気に体育の授業や外遊びで活動しており、順調に体力は回復していると思われる。ただ、個人差は開いたように感じるので、家庭と連携した取り組みも行っていきたい。

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 豊かな心を育むために
  - ・道徳科授業研究会や保護者への授業公開を通し、心の教育の充実を図る。自分を大事にするとともに他人を思いやる心を大事にした人権尊重の精神を養う。
- 確かな学力を育むために
  - ・児童一人一台配付のタブレット端末を効果的に活用し、全ての子供たちが「分かる・できる・考える」授業を行う。
  - ・授業形態の工夫や学習方法の具体的な説明、授業に集中できる環境など授業のUD化を図ることで、子どもたちの学ぶ意欲と学び方を育てる。
- 健やかな体を育むために
  - ・「さんさん生活習慣」の取組で自らの健康をしっかりと考え、「パワーアップタイム」では、子どもたちが自主的・意欲的に取り組むような工夫を行う。
- その他の取り組みについて
  - ・「先生と話そうタイム」等を活用し、一人一人の子どもの様子を十分把握する。
  - ・教師自身が人権感覚を高めるとともに、いじめを見逃さず、互いに認め合う集団づくりを行う。
  - ・明るく気持ちのよいあいさつが飛びかう学校を目指し、教師も明るい挨拶を実践する。
  - ・子どもたちが安心・安全に生活できるような教育環境づくりを行う。

### 学校関係者評価

- <子供たちの豊かな心を育むために>
  - ・一人一人の個性を生かし、自ら考える力を身に付けさせる教育を推進してほしい。
  - ・一人一人の児童に寄り添う教師、保護者とはコミュニケーションがしっかりできる教師を目指して欲しい。
  - ・子供たちは努力が報われたときやる気を起こすのではないかな。
- <子供たちが進んで学ぶために>
  - ・一人一台のタブレット端末を効果的に活用した授業の工夫や課題の工夫
  - ・子供たちの興味・関心を喚起する楽しい授業を展開して欲しい。
- <健康、安全・安心確保のために>
  - ・危機回避能力を身に付けるような訓練を通した安全教育の推進
  - ・健康づくりは家庭の生活環境が一番影響する。保護者への啓発もお願いしたい。
  - ・コロナ禍中、学校も家庭も大変だが安全第一の指導をお願いする。地域も一緒にお手伝いしたい。
- <その他>
  - ・学校評価に対する保護者・児童・教職員の意識の差が大きい部分の分析を。
  - ・児童の登校時の挨拶は声が小さい。下校時は自ら大きな声であいさつしている。
  - ・保護者が多忙で学校に頼りがちになる面が見られる。